

ふたりなら、
きっと大丈夫。

PIERRE DELADONCHAMPS CAMÉLIA JORDANA
WITH ZOE JOWE THOMAS MUSTIN CHRISTELLE CORNIL ANNE AZOULAY FARIDA RAHOADJ YANNICK CHOIRAT

ぼくは君たちを 憎まないことにした

YOU WILL
NOT HAVE
MY
HATE

監督・脚本:キリアン・リートホーフ『陽だまりハウスでマラソンを』 原作:「ぼくは君たちを憎まないことにした」
2022年ドイツ・フランス・ベルギー(フランス語:102分)シネスコ(5.1ch)原題:Vous n'aurez pas ma haine|英語:YOU WILL NOT HAVE MY HATE|日本語字幕:横井和子
提供:ニューセレクト(配給:アルバトロス・フィルム) 後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス

ある日突然、最愛の人を奪われてしまったら、あなたならどうしますか?

アカデミー賞スタッフが贈る、
世界的ベストセラー小説の映画化

あなたは、
憎しみに満ちた
この“世界”と
向き合う勇気は
あるか——？

最愛の妻を奪われた男と生後17ヶ月の息子
悲しみと希望を詩情豊かに綴る感動の実話

2015年11月13日金曜日の朝。ジャーナリストのアントワヌ・レリスは息子のメルヴィルと一緒に、仕事に急ぐ妻のエレーヌを送り出した。息子のために健康的な朝食を手作りして体調管理に気を配り、おしゃれでユーモアのセンスもある。最高の母であり、最愛の妻が、突然、天国へ行ってしまった。そんな時でも息子はお腹を空かせ、砂で遊び、絵本の読み聞かせをねだる。誰とも悲しみを共有できない苦しみと、これから続く育児への不安をはねのけるように、アントワヌは手紙を書き始めた。妻の命を奪ったテロリストへの手紙は、息子と二人でも「今まで通りの生活を続ける」との決意表明であり、亡き妻への誓いのメッセージ。一晩で20万人以上がシェアし、新聞の一面を飾ったアントワヌの「憎しみを贈らない」詩的な宣言は、動揺するパリの人々をクールダウンさせ、テロに屈しない団結力を芽生えさせていくのだった——。

本作は、家族3人で幸せに暮らしていたアントワヌが、テロ発生から2週間の出来事を綴った世界的ベストセラー『ぼくは君たちを憎まないことにした』の映画化である。最愛の人を、予想もしないタイミングで失ったとき、その事実をどう受け入れ、次の行動に出るのか。アントワヌは確信している、妻はいつもどこから二人を見守っていると。



米子シネマクラブ第161回例会

と き：2025年6月8日（日） ①午後2時～ ②午後7時～ （上映時間 102分）

ところ：米子コンベンションセンター 月会費 大人1000円 中高生500円 入会金500円
（小ホール） （新入会の方は入会金と会費2か月分が必要。当日入会可）

お問い合わせ：米子シネマクラブ 090-8248-9810